

まち全体を学びの場に

町内中学校交流プロジェクト

9月29日から10月1日にかけて、木山中と益城中の生徒たちが、Web会議システムを使い交流を図りました。

これは、学校運営協議会委員の「町内にある中学校同士がもっと交流できるとよい」という願いから、委員が主体となって調整・準備し、実現した場です。

両校の生徒会役員は、昼休みを利用して「今後合同でできる活動」について話し合いました。その結果、「町をよりよくするための協力の第一歩にする」ため、学校を歩き来して行く「合同あいさつ運動」の実施を決めました。



木山中生徒会(上)と益城中生徒会(下)がオンラインで交流

2年連続！町民がエイジレス章を受章

安永2町内の江森勝喜さん、惣領4町内の村上眞智子さん

10月6日、エイジレス章の伝達式が行われました。

これは、年齢にとらわれず自由に生き生きとした生活を送る高齢者を「エイジレス・ライフ実践事例」として、内閣府が決定・周知するもの。地域に根差した団体の設立や活動が評価され、令和2年度に江森勝喜さん、3年度に村上眞智子さんが選考されました。

書状と記念の楯を受け取った2人は、今後の活動計画を語りながら「地域の皆さんと共に活動を継続していきたい」と意気込んでいました。



表彰を受けた江森さん(左)と村上さん(右)

学びの場で地域との連携再開

広安西小で特別授業

広安西小で10月14日、ゲストティーチャーを迎え特別授業が行われました。

6年生は修学旅行に向けたナップサック作り。5人のボランティアが授業に参加し、ミシンの使い方などを教えながら児童たちと製作に取り組みました。

3年生は町消防団による講話と積載車見学。園川誠一第3分団長が活動内容や団員としての思いを語ると、児童たちは積極的に手を挙げて質問していました。また、積載車見学では各クラス2人の児童が、ホースの延長や筒先を持って消火体勢をとる体験をしました。

こうした地域と連携する学習が久しぶりに再開され、児童たちは普段の教科書を使う授業とは違う学びに目を輝かせていました。

1 ボランティアに教えてもらいながらミシンに挑戦

2 積載車の装備品を学習 3 ホースの筒先を持って消火体勢

